



上巻① 磯部百舟



上巻②

10 神都四季景色 磯部百舟・川口呉川・中村左洲

三巻

大正十三年（一九二四）

絹本着色

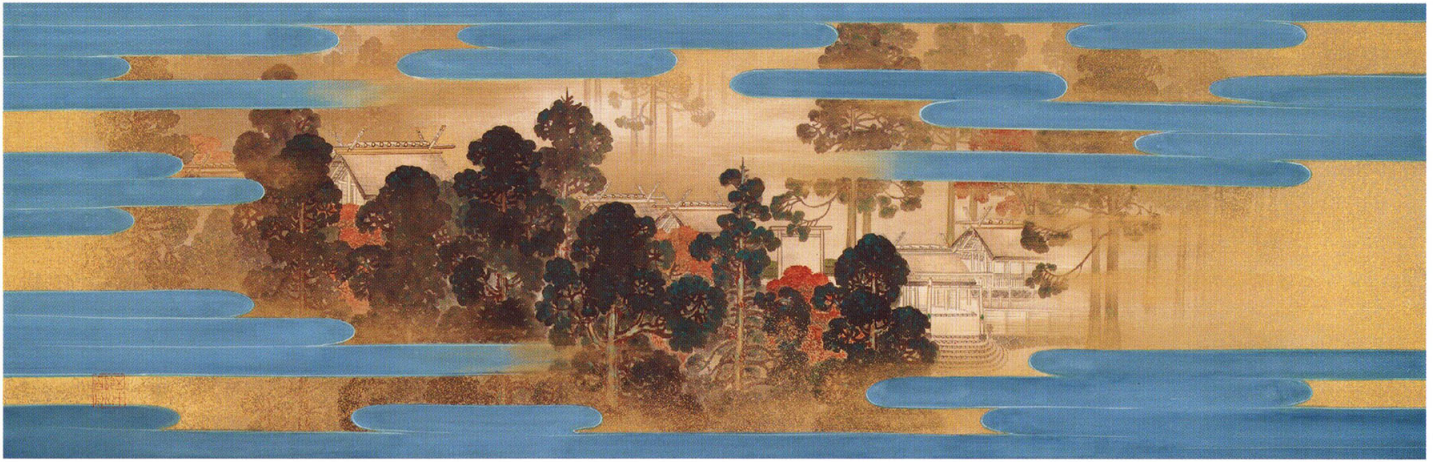
（上巻）本紙三六・三×四五・五・四

（中巻）本紙三六・一×四五・五・五

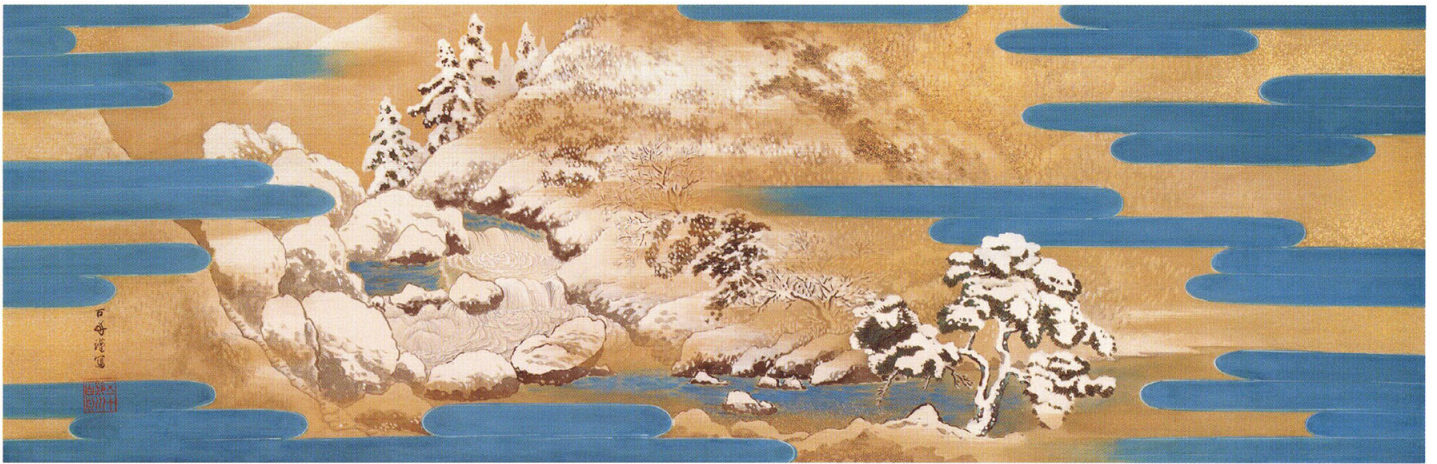
（下巻）本紙三六・三×四五・五・八

大正十三年（一九二四）に、御結婚された皇太子（昭和天皇）と皇太子妃（香淳皇后）が神宮に謁するの儀を執り行うために三重県下へ行啓された際に、三重県宇治山田市より献上された作品。宇治の画家三人が一卷ずつ揮毫している。作者の呉川、左洲は磯部百舟の門人であり、磯部百舟（二八七八〜）も百舟の第三子で父の指導を受けて画家となった。百舟は百舟の弟子たちの集いである花水社の筆頭であり、同社には左洲も呉川も名を連ねていた。

各巻とも伊勢神宮周辺の景が四季の移ろいとともに描かれている点が特徴である。百舟が描くのは春の宇治橋から始まり、紅葉と常緑の入り混じる静謐な内宮である。次に呉川は、「桜の渡し」と呼ばれ桜の名所であった宮川の渡しを描き、外宮御厩から神馬を牽引する場面などが続く。そして左洲は、神事に用いる塩を作る御塩殿神社を夏の景として描き、続いて伊勢神宮の鬼門を守る位置にあり「神宮の奥之院」ともいわれた朝熊岳金剛證寺、そして砂子できらびやかに装飾し遠景に富士を望む二見ヶ浦の冬景を描いている。百舟門下の三人の合作であるが、三巻を見比べると三者三様、明確に異なる画風が展開されている。ただし三巻とも群青のすやり霞が画面に広がり、伝統的な大和絵様式を十分に意識しているという点では共通性がうかがえる。



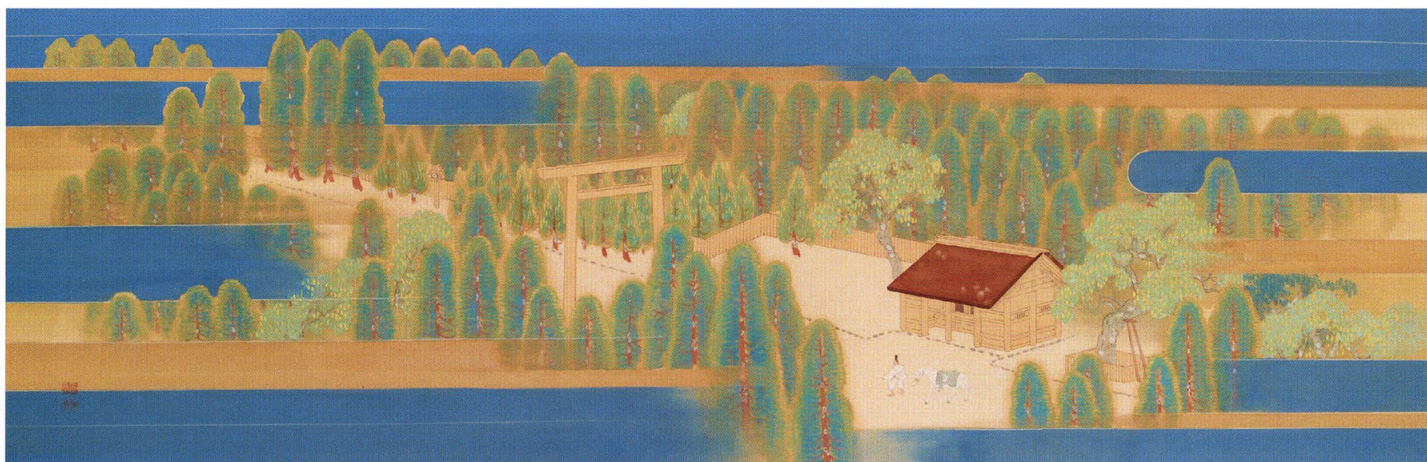
上卷③



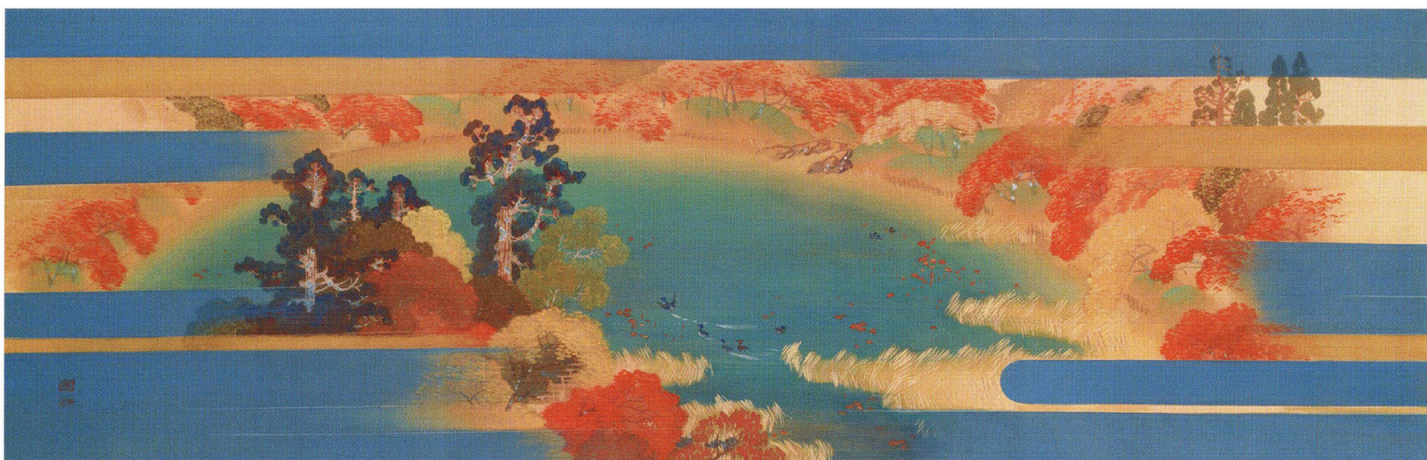
上卷④



中卷① 川口呉川



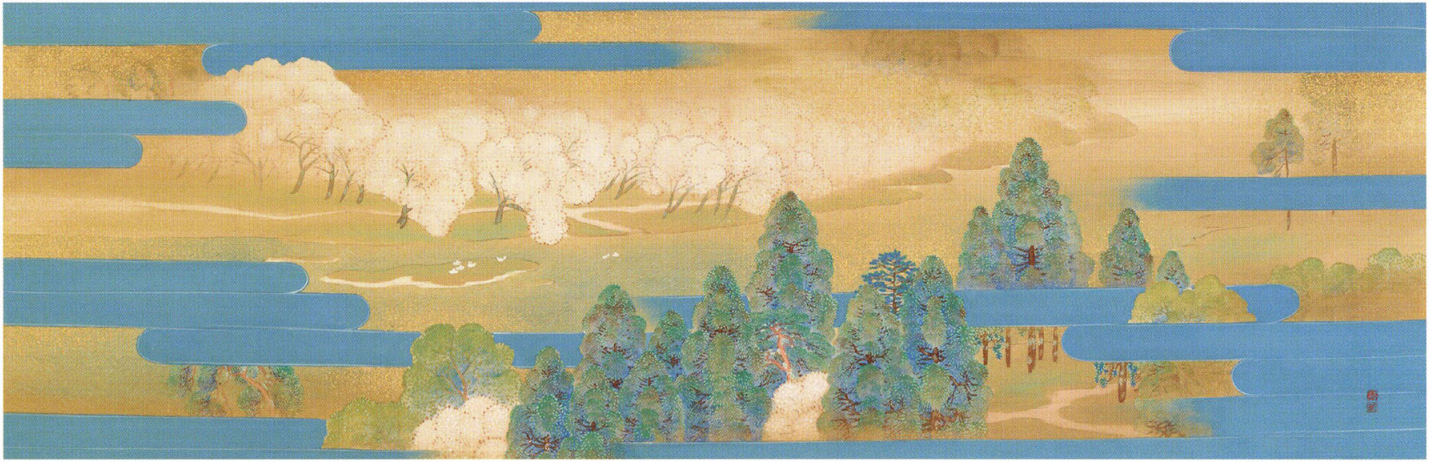
中巻②



中巻③



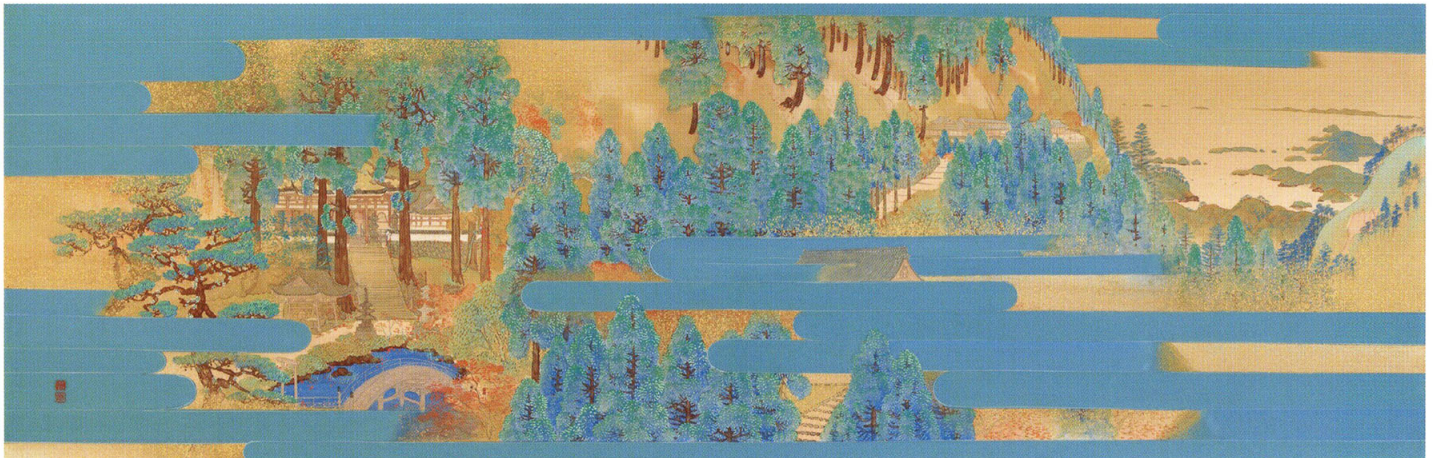
中巻④



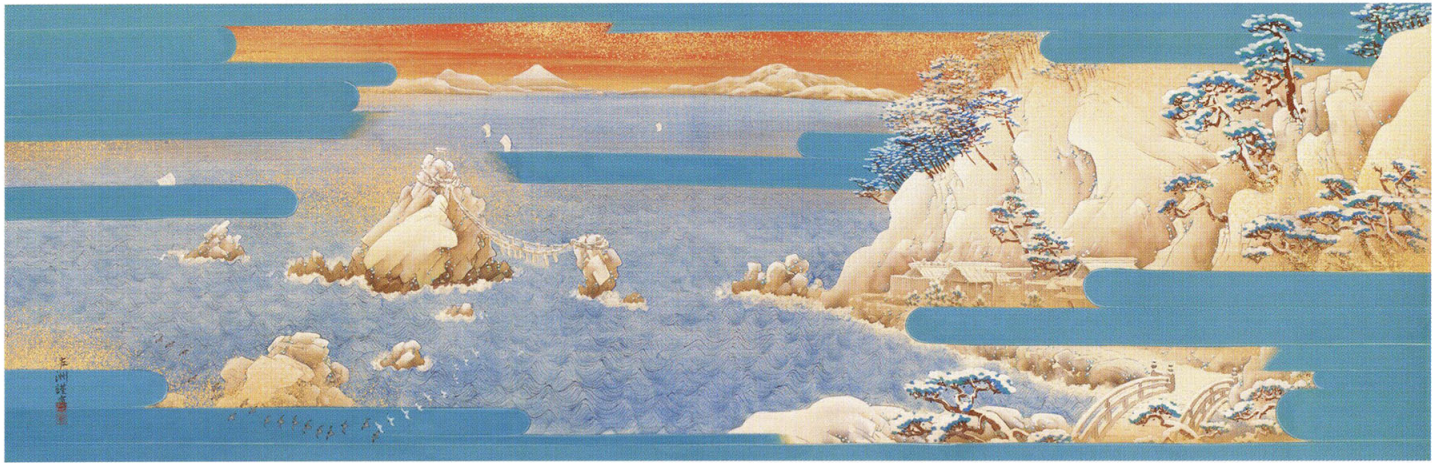
下卷① 中村左洲



下卷②



下卷③



下巻④



部分

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

寿ぎの品々を読み解く

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 75

編集 宮内庁三の丸尚蔵館
制作 株式会社 東京美術
翻訳 黒川廣子
発行 宮内庁
平成二十九年一月七日発行

© 2017, The Museum of the Imperial Collections, Sanmonnan Shozokan